

令和5年度 江戸川区立第七葛西小学校 学校関係者評価 最終評価報告書

| | | | |
|-------------------|--|----------------------------|---|
| 学校教育目標 | 児童一人一人の「生き抜く力」を育む教育を目指し、「学力向上」「豊かな道徳心」「体力の向上」を重点化し、次の4点を目標として設定する。 | 目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像 | ○3つの「が」（学びが、働きが、通わせが）のある学校 ○礼儀、責任、感謝の気持ちをもつ児童 ○プロ意識をもち、指導力向上に励む教師 |
| 前年度までの学校経営上の成果と課題 | <成果>児童の表現力の向上を図るために校内研究教科を外国語に定め、授業力の向上を進めた。3年間計画の2年目として、授業の基礎固めが終わり、全学級で外国語授業の質を向上させることができた。主幹、主任教諭が中心となり、生活指導面、不登校対応、特別支援教育、外国籍児童への支援などを組織的に進めることができた。若手研修、OJTを活発に計画的に行い、若手育成を推進することができた。 <課題>児童のコミュニケーション能力や表現力の向上を実現するため、8割を占める若手教員の授業力と学級経営力の向上。 | | |

| 教育委員会重点課題 | ＜取組項目＞・評価の視点 | 具体的な取組 | 数値目標 | 自己評価 | | 学校関係者評価 | | 年度末に向けた改善策 |
|-------------------|---|---|---|--|----|--|---|--|
| | | | | 取組 | 成果 | 評価 | コメント | |
| 学力の向上 | ＜学力の向上＞ ・授業改善の推進、学習の基礎となる基礎・基本の確実な習得、家庭学習習慣に対しての学校の組織的な対応による取組の実施・充実 | ・年間を通して朝学習(読書、算数、外国語)を実施 ・年度当初に前年度の学力テスト(業者作成)を2～6年生で実施 ・年3回、東京ベーンシグナルの診断シートを実施 ・放課後補習教室(業者)を2～6年生で、夏季補習教室(教員)を全学年で実施 | ・朝学習(読書、算数、English)の合計実施回数を100回以上確保する。 ・年度当初の学力テスト(業者)と同じ内容で2学期末に再度行い、正答率を20%向上させる。 ・東京ベーンシグナルの診断シートにおいて、平均正答率を2%向上させる。 ・放課後補習教室(業者)を5月より開始し、年間150回の実施回数を確保する。 | A | B | ・朝学習は毎週3回ずつ実施。算数タイム、イングリッシュタイムなど、内容のリエーションが増えた。年間120回を達成できる見込み。 ・学力テストを12月に行い、4月の結果と比較する予定。 ・東京ベーンシグナルの診断テスト結果は、学年や単元による得点差が大きく、平均正答率は目標まで達していない。 ・放課後補習教室は計画的に実施している。内容の充実と対象児童の選出方法が課題である。 ・全国学力調査(6年)の結果が、国語、算数とも平均を2～3ポイント下回った。学年による違い、2極化の影響が大きい。日本語の習得が課題。 | ・朝学習は毎週3回ずつ実施した。算数タイム、イングリッシュタイムなど、内容のリエーションが増えた。 ・業者との契約上、学力テスト2回目は実現できなかった。 ・東京ベーンシグナルの診断テストは、接続が悪かったため、年度途中からは今年度導入されたマイボードを使用した。しかし、平均正答率の向上は実現できなかった。 ・年間を通して、放課後補習教室を実施できた。 ・全国学力調査の結果が下がった要因は、学年の児童の選出方法、内容の充実化について検討会を設けて改善に取り組む。 ・5年生のCD劇に重点を置いて反復練習的な補習機会を増やすことで全国学力調査(新6年)の達成率向上に努める。 | ・短時間でも集中できるように課題を小課題、すぐに取柄かれ繰り返しに解かれるような課題を開発する。 ・令和6年度には4月と1月に業者の学力テストを実施し、学力向上の分析と、児童の学習意欲向上に役立てる。 ・マイボードの利便性を活用し、ドットルな学習を増やすことにより診断テスト結果の向上を目指す。 ・業者との連絡方法、担当教員の負担、対象児童の選出方法、内容の充実化について検討会を設けて改善に取り組む。 ・5年生のCD劇に重点を置いて反復練習的な補習機会を増やすことで全国学力調査(新6年)の達成率向上に努める。 |
| | ＜読書科の更なる充実＞ ・読書を通じた探究的な学習の実施・充実 | ・年間を通して、図書司書と図書ボランティアと連携して読書の読書推進を進めるとともに、各学級において読み聞かせと本紹介を実施 ・学校図書館の蔵書をデータ化の実施 ・国語と総合的な学習の時間(生活科)において、読書を通じた探究的横断的な学習の実施 | ・読書の読み聞かせを年間4回実施する。 ・お勤めの本の紹介会、お話を会を各回ずつ実施する。 ・9月より開始。 ・調べ学習コンクールは3～6年生で児童が応募し、目標値80パーセントを上回る事ができた。作品の質の向上に自力で取り組む児童の指導方法が課題。 | ・読み聞かせは、朝読書の時間に図書ボランティアを招き聞かせ活動を実施している。内容も充実している。 ・10月に蔵書管理システムの導入により、本の貸出が簡便になる予定。 ・調べ学習コンクールは3～6年生で児童が応募し、目標値80パーセントを上回る事ができた。作品の質の向上に自力で取り組む児童の指導方法が課題。 | A | A | ・図書ボランティアの登録31名と多く、図書館の整理読み聞かせ活動を実施している。内容も充実している。 ・10月に蔵書管理システムの導入により、本の貸出が簡便になる予定。 ・図書館の蔵書管理システムを無事導入され、児童の貸出方法を年末で行えるようになった。 ・調べ学習コンクールは、金賞や銀賞の受賞者が出るなど、質の向上が見られた。 | ・読み聞かせで行われたペーパーサートを全校児童に対して発表できる場を増やし、読書への関心を広める。 ・蔵書管理のデータを分析し、児童の読書量や読書傾向の把握に、読書習慣を身に付ける。 ・調べ学習コンクールは、金賞や銀賞の受賞者が出るなど、質の向上が見られた。 |
| 体力の向上 | ＜運動意欲や基礎体力の向上＞ ・運動意欲の向上や健康の推進に向けた取組の実施、改善、充実 | ・中休みに利用した。全校運動遊びの実施 ・年間2回、継続び大会を実施。継続カードの配布 ・年間1回、校内種大会を実施。力まね大会 ・12月と1月に持久走週間を実施、持久走カードの配布 | ・全校運動遊び(4コース)テストの運動を取り入れ、6月実施の体力テストで平均値を都府県と同水準にする。 ・短距離1個人ごとに、長縄は学級ごとに目標値を設定し、全体の6割で目標達成を実現する。 ・マラソンカードを6割の児童に発着させる。 ・学校関係者評価の体力向上に向けた取組の項目において、85%以上の肯定的評価を得る。 | A | B | ・体力テストは、区や都の結果より大きく下回った。特に投げ、投げが低い。体力テストと授業の種目の関連性を強化して取り組むことと目標。 ・1月の体育朝会で長縄の3分間連続跳びを取り組む。低学年も跳ぶことができるようになっている。 ・60%の学級で目標を達成できる見込みである。 ・マラソンカードは内容を再検討し、児童の意欲喚起に努める。 ・外遊びをする児童が70%を超えている。 | ・全校運動遊びが、スポーツテストの種目を取り入れ、学年の結果が特に好ましくない。 ・長縄の取り組みが例年レベルで行えた。低学年の跳び方と記録が向上が見られた。半面、跳びごに恐怖心を感じる児童、校庭の整備状況などにより練習機会が減少の課題が残った。 ・中休みにマラソンを履き替えるに要する時間について、検討が必要。 ・朝遊びをする児童が増え、外遊びの推進ができた。 | ・全校運動遊びが、スポーツテストの種目を取り入れ、学年の結果が特に好ましくない。 ・長縄の取り組みが例年レベルで行えた。低学年の跳び方と記録が向上が見られた。半面、跳びごに恐怖心を感じる児童、校庭の整備状況などにより練習機会が減少の課題が残った。 ・中休みにマラソンを履き替えるに要する時間について、検討が必要。 ・朝遊びをする児童が増え、外遊びの推進ができた。 |
| | ＜特別支援教育の推進＞ ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・副籍交流、交流及び共同学習の実施・充実 | ・定期的な校内委員会の開催。 ・エンカレッジ担当教員と職員室待機教員のシフト化。 ・副籍本学園との副籍交流の推進。特別支援教育センターの機能業務事業の活用。 ・特別支援に対する教員の研修会の実施。 | ・定例を月1回(年間10回)開催する。対象児童を確認した場合、即時に臨時開催する。 ・5月まで「曜日ごと」にエンカレッジ担当表を作成し、全教員が利用する児童に開かれた体制を作る。 ・鹿本学園との文書交流を月1回ずつ実施する。在籍学校、学年別の学習交流を年3回計画する。 ・巡回指導教員、SCの研修会を年2回計画する。 | ・月1回以上の校内委員会を実施した。新しく特別支援教室に入籍した児童が5名。適切に組織的に支援を行っていた。 ・4月までに分担任表を作成し、エンカレッジルーム担当が常時職員室に待機していた。担当者以外の教職員も柔軟に対応して臨機応変に対応する力が身に付いた。 | A | A | ・月1回以上の校内委員会を実施した。新しく特別支援教室に入籍した児童が5名。適切に組織的に支援を行っていた。 ・4月までに分担任表を作成し、エンカレッジルーム担当が常時職員室に待機していた。担当者以外の教職員も柔軟に対応して臨機応変に対応する力が身に付いた。 | ・特別支援を必要とする児童が増えている中、特別支援教室への入籍が早期に確実に実施できるよう、年4回の判定会を教務と連携して確実に行ってきた。 ・3学期になっても1年生の児童が遅れ遅れで学習に取組めないことがある。他の学年は遅れ遅れで学習に取組めるようになった。 ・不登校傾向の児童1名がほぼ学習活動に戻ることができた。半年、5年に1名、3年に2名がほとんど登校できていない。SSW、SC、児相等の連携を深めることができた。 ・復籍交流は入籍数を増やすことを検討する。特別支援研修会は年3回実施した。 |
| 子どもたちの健全育成 | ＜子どもたちの健全育成に向けた取組＞ ・不登校対策の実施・充実 ・教育相談の強化 ・Hyper-QUの活用 | ・いじめ防止研修会の実施 ・「Hyper-Qu」とその解析を行い、校内研修会で教職員間の情報共有 ・道徳授業地区公開講座の講師講話による教職員の意識改革の実施 ・いじめ防止アンケートの実施。道徳授業における「いじめ防止授業」の実践 | ・いじめ防止研修会を年間3回実施する。 ・7月に「Hyper-Qu」を実施。8月に校内研修会において情報を全校で共有する。 ・いじめ防止に関する道徳授業を全学級実施する。 ・いじめ防止アンケートを年間3回実施する。 | A | A | ・6月にいじめ防止研修会。9月にHyper-QUの校内研修会を実施した。児童の間関係性を読み取るだけでなく、学級の心を耕す活動について教員が研修を行い活用している。 ・道徳授業地区公開講座等、いじめについて全学級で道徳の授業を行った。 ・いじめ防止アンケートを年間1回実施した。今後、2回実施予定である。 | ・10月に人権研修会を実施した。教職員の年3回研修会により、体罰やハラスメント、LGBTについて研修を行った。児童に対しては人権を尊重して接することを徹底することができた。 ・1月に区小教研の道徳授業を本校で実施した。道徳推進リーダーの指導力のある主幹教諭、主任教諭の授業を参観することができ、徐々に道徳授業のレベルを向上できた。 ・いじめの早期対応、早期解決ができた。 | ・児童が安心して学校へ登校できるよう、年間3回程度の研修会や研修会をそれぞれ実施し、教職員の意識向上と連携に努めた。 ・道徳授業が学級経営に影響する実践し、日常的に互いの授業を見合わせるように計画をして、さらに質の向上に努める。 ・いじめは絶対に許さないという意識をもって行動できるように、全校朝会や学級活動の時間を活用して指導し、未然防止に努める。 |
| | ＜自校(園)の取組の積極的な発信＞ ・学校(園)ホームページの充実等 ・学校により、学年たりの継続的な発信と内容の見直し ・学校(園)公開の実施・充実 | ・ホームページの日常的な更新による本校の取組の情報提供を実施 ・学校により、学年たりの継続的な発信と内容の見直し ・学校公開、学校説明会の実施 | ・週に2回程度、学校の様子をHPに配信する。 ・月に1回ずつ発行する。読みやすい内容に改良する。 ・年3回の学校公開、年1回の学校説明会を開催する。 | ・ホームページは、給食、行事だけでなく、学級での取り組みについてもほぼ即日UPさせることができた。 ・学校公開、学校説明会は予定通り実施できた。 | A | A | ・ホームページは、給食、行事だけでなく、学級での取り組みについてもほぼ即日UPさせることができた。 ・学校公開、学校説明会は予定通り実施できた。 | ・各学級が2回ずつホームページ更新することを徹底させる。 ・写真や文書の更新をスムーズに行えるようにチェック体制を確立し、実行。 ・学校公開の見どころポイントを決めたが、学校説明会でICT機器を活用したりして、本校の特色が分かりやすく保護者へ地域に伝わるように改善する。 |
| 地域に広く開かれた学校(園)の実現 | ＜学校関係者評価の充実＞ ・教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施 | ・学校行事におけるPTAとの連携を図り、教育ニーズとPTA負担を考慮した、スマートな行事の在り方を構築 ・教職員の、PTA行事や地域行事への積極的参加の推奨 ・年3回の学校評議員会の実施 | ・PTAの「がぶり」と連携して、各行事の動画配信を実施する。 ・オーガムキャンプ(9月)、ともだち祭(12月)、ウォークラリー(3月)を計画する。 ・教員への参加ができた。PTAと連携しながら広報活動を進めることができた。 ・相模大会、オーガムキャンプなど、昨年度までコロナ禍でできなかったPTA活動が行えた。教職員も毎回各々ずつ参加できた。さらに地域や保護者と連携を深められるよう努める。 ・年3回の学校評議員会が実施できる見込み。地域の意見を取り入れる。 | A | A | ・「fretoru」による連絡メール配信、PTA広報部による「がぶり」を新しく導入できた。PTAと連携しながら広報活動を進めることができた。 ・相模大会、オーガムキャンプなど、昨年度までコロナ禍でできなかったPTA活動が行えた。教職員も毎回各々ずつ参加できた。さらに地域や保護者と連携を深められるよう努める。 ・年3回の学校評議員会が実施できる見込み。地域の意見を取り入れ、地域と一体した学校づくりを目指す。 | ・今年度から導入された「fretoru(学校管理)」と「がぶり」(PTA管理)の発信手帳に慣れて来て、年間を通して教育活動のやり取りがスムーズに伝わるようになった。 ・PTA活動や地域行事に、教職員が年間2回以上に参加できるように推進する。 ・評議員の在籍時間1時間程度ずつ短くできる学校づくりに努める。 | |
| | ＜学校における働き方改革プランに基づく取組の実施 | ・提示退勤日(チャレンジ・ウェンズデー)の実施 ・年間を通して、会議における業務処理システムの利用 | ・毎月の時間外勤務時間が45時間以上の教員を3人以下に抑える。 ・各種会議の現状の8割に減らし、会議時間も10%短縮させる。 | ・毎月の勤務時間外の在籍時間が45時間を超える教員が5名から2名程度に減らすことができた。職員会議の削減、定時退勤日の実施、校務支援システムの利用などにより、4月に比べて、全教員の合計の勤務外時間を20%程度削減できた。 | B | B | ・週1回の定時退勤日、月ごとの在籍時間の周知を、年間を通して実施した。会議の精選に取り組み、実際に減らすことができた。さらに教職員の着床体制の推進、休みを取りやすい職場づくりを努めた。その結果、在籍時間を減らせた教職員が多かった。 | ・職員による仕事量の調整や適材適所配置を行うことで、全員の在籍時間1時間程度ずつ短くできるようにする。 |
| 特色ある教育の展開 | ＜学校における働き方改革プランに基づく取組の実施 | ・提示退勤日(チャレンジ・ウェンズデー)の実施 ・年間を通して、会議における業務処理システムの利用 | ・毎月の時間外勤務時間が45時間以上の教員を3人以下に抑える。 ・各種会議の現状の8割に減らし、会議時間も10%短縮させる。 | B | B | ・毎月の勤務時間外の在籍時間が45時間を超える教員が5名から2名程度に減らすことができた。職員会議の削減、定時退勤日の実施、校務支援システムの利用などにより、4月に比べて、全教員の合計の勤務外時間を20%程度削減できた。 | ・週1回の定時退勤日、月ごとの在籍時間の周知を、年間を通して実施した。会議の精選に取り組み、実際に減らすことができた。さらに教職員の着床体制の推進、休みを取りやすい職場づくりを努めた。その結果、在籍時間を減らせた教職員が多かった。 | |